

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日:2024年4月7日(日)

活動隊員:福島芳子

1. 活動期間

2024年4月2日(火) 10時 ~ 2024年4月4日(木) 16時

2. 活動場所

避難所:珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

仮設住宅:正院町第1団地(珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地)

宝立町第1団地(珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83)

仮設住宅入居説明会:珠洲市立珠洲焼資料館(石川県珠洲市蛸島町1-2-563)

3. 石川県珠洲市の被害状況(4月2日 14:00 現在 石川県庁情報)

人的被害 死者:103人 うち災害関連死:6人 負傷者:重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊:8,197棟 非住家被害:4,291棟

4. 避難所の状況

【避難者数】

4月2日:19人

【避難所運営】

外部常駐支援終了後、避難所利用者で役割分担し、自主運営が円滑に進められていた。4月に2次避難者が戻る予定は延期された。今後、2次避難先を移動して、新たな2次避難先での避難生活を継続する予定であり、当面は、避難所の避難者数に大きな増加はない。水道は復旧していない。

【避難所の生活状況】

避難所で過ごすのは、小中学校が春休みの親子1家族、高齢者2人、避難所運営者数人である。4月5日は入学式が行われる。

食事については、時々、昼食時に、キッチンカーの炊き出し支援や弁当配給が提供されていることで、避難所で食事を作る回数が減り、支援で届く野菜が腐り使用できない状況もある。

入浴は入浴施設を定期的に利用されている。

5. 仮設住宅の状況

正院町第1団地:全76戸入居終了し、要支援者の中には、デイサービスなどの福祉サービス利用も開始されている。敷地内で犬の散歩をしたり、スーパーに自転車で買い物に行ったり、通院するなど、新たな住居での日常生活を過ごされていた。同意いただける入居者については、団地配置図や住居に氏名掲示をし、居住者が分かり入居者同士が交流できるようにしていく準備が進められている。訪問時の生活状況調査では、住居間の砂利道は、高齢者には歩きづらく転倒の危険があるとの声も聞かれた。駐車場ではなく、家の前に駐車している車も多くあった。

宝立町第1団地：153戸完成し、4月6・7日入居説明会を実施し、4月8日より入居開始予定である。入居戸数も多く、訪問が円滑にすすめられるように、入居説明会時に初回巡回訪問可能な日時調査を実施する。入居開始後3日間は、避難所からの食事提供が継続されるよう準備がされていた。避難所班長が入居する班もあるが、当面はこれまで通りに避難所運営を支援する。

6. 支援活動の実際

【避難所巡回支援】

体育館内を巡回した。外部常駐支援の終了後、体調不良者はでていない。トイレの衛生環境、床清掃や物品の整理も維持されていた。キッチンカーの炊き出し提供では、お代わりされている方もいた。市内に買い物に行った際に水洗トイレがどこにあるのかわからないという高齢者に、健康増進センターにトイレカーが設置されていることをお伝えした。

【仮設住宅支援】

初回巡回訪問：入居者76戸中、4月2日までの不在者は、8戸であった。不在者宅には、連日訪問し、1戸の聞き取り調査が行え、残り7戸には、訪問可能な日程を健康増進センターまで連絡いただくよう郵便ポストに投函した。郵便ポストに行政から配布された印刷物が溜まっているのは1戸で、その他は郵便物が溜まっていなかった。

要フォロー者訪問：8名の要フォロー者を訪問した。うち、連日訪問しても不在であったのは、3名であった。3名とも郵便ポストに行政から配布された印刷物は溜まっていなかった。不在者については、PWJ（ピースウィンズ・ジャパン）の看護師に継続フォローを引継いだ。

近所との交流がないと訴えていたケースは、親戚や震災前に同地区で居住していた知人が居住していることがわかり、お茶に寄るなど少しずつ入居者同士の交流が生まれていた。高齢者世帯の中には、隣人が声かけするなどのサポートをしてくださる世帯もあった。巡回訪問で受診を促されていた高齢者は、自ら医療機関を受診し内服管理ができていた。喫煙、飲酒、内服薬管理不十分などで健康面へのサポートが必要なケースでは、受診行動につながっていない方もいた。被災された手つかずの自宅を見ることに対して、精神的負担を訴えるケースもあった。要フォロー者のうち、他の専門職チームにフォローを依頼する重篤なケースや困難事例はなかった。

コミュニティ支援：仮設住宅における地域コミュニティの構築のためのミーティングに参加した。参加者間で、コミュニティに関する現在の困りごとについて情報共有した。今後、ミーティングを継続的に実施し、次回はコミュニティの再構築に向けての課題整理をする。

仮設住宅支援事前調査：珠洲市立宝立小中学校避難所を訪問し、避難所責任者より宝立町第1団地入居者の避難所生活や入居後のコミュニティ課題などについて情報収集をした。今後の地域づくりのきっかけとなるよう、4月にお花見を計画している。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【避難所支援】

自宅での生活再建に向けてなどで一時的に帰宅される方の受け入れもあるが、震災当初に比較し、少人数での生活であり、顔の見える関係の中で、自主運営が円滑に実施されていた。避難所開設から3ヶ月が経過したが、避難所閉鎖の目途がつかない状況であるため、被災者である運営者の身体面・精神面でのフォローが課題である。

キッチンカーの炊き出し支援や弁当配給などにより、食事準備・片付けなど運営者の負担軽減がされる一方、食材廃棄問題やカロリー過多や栄養バランスの偏った食事となってしまう可能性もある。被災による活動減少も予想されるため、今後、定期的に体重増加や高血圧・糖尿病などの健康チェックが必要である。

【仮設住宅支援】

巡回訪問による声かけにより、要フォロー者を早期受診につなげることができていたケースもあり、災害関連死を防ぐためにも継続フォローは重要であると実感した。今後は、ささえ愛センターと連携し、共に活動していくことが重要であると考えます。新たな団地の入居も開始される予定であり、初回巡回訪問・要フォロー者数の増加が予測されるため、誰一人取り残さないための重層的な支援体制や関係機関の連携強化が課題である。

新たな地域コミュニティづくりについては、入居後に表出した困りごとが、多岐にわたり生じていることが明らかになった。地域の実情に応じたコミュニティの再構築をしていくためには、関係機関と連携しながら、住民主体で進めていく必要がある。

参考：現地の様子



避難所仮設水洗トイレ



宝立町第1団地